



令和2年7月17日

園長 大西 三千代



ありがとうございました。そして、よろしくお願いたします。

先月に令和2年度PTAの書面総会が終わり、新役員さんが決まりました。今月クラス代表委員も決まり、ようやくいろいろなことが進み始めました。令和元年度の石原会長様はじめ本部役員・クラス代表委員の皆様には、大変お世話になりました。またコロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度末より従来のように活動ができないまま、例年に比べて2か月間も長く重責を担っていただきましたことに感謝申し上げます。また、尾上新会長様はじめ新本部役員・クラス代表委員の皆さまにおかれましては、本年度も帯解こども園の子ども達の健やかな成長を目指して、園の職員と保護者の皆様が共に歩んでいきますよう、よろしくお願いたします。

帯解こども園 教育・保育目標

『明るく やさしく たくましく
生き抜く子どもの育成』

- 《明るく》 心身ともに健康で
生き生きと生活する子ども
- 《やさしく》 自分も友達も 大切にすることも
- 《たくましく》 自ら考え 最後までやり抜く子ども



子ども達が大好きな『ごっこ遊びやままごと』。この遊びは、毎年、年中どこのクラスでも必ず誰かがしている大人気の遊びです。

保護者の皆様の中にも、小さな頃「ままごと」や「〇〇ごっこ」で夢中で遊んだことを懐かしく思い出す方もおられるのではないのでしょうか？

子どもにとって最も身近な生活のモデルは家庭や園です。家族の中の人間関係を再現したり、自らが中心となって采配を振ってみたり…。ごっこ遊びの中では、マネジメントやコミュニケーション能力、役割意識など多くの力が育まれます。



想像できる世界を持てることってすごい！

「ごっこ遊び」とは、「まねっこ」遊びのことです。まねができるということは、真似したい魅力的なモデルがいるということ。つまり、子どもが心を動かしている日常的な経験があるからです。(略)ごっこ遊びをする子どもはそれだけ、心を動かすという大切な経験をしているのです。しかも、心動かされた経験を真似て表現するという行為は、そのものになってみるという経験です。ママやパパやお姉ちゃんやペットになってみるということは、多様な視点からその対象を理解するということです。自分ではない他者になってみることを通して、多様な他者のことを理解する経験にもなっているのです。それは、小説などを読む時の主人公の気持ちを理解することに通じます。そして、ごっこ遊びを通じて「なってみる」経験をしながら、他者と交渉の仕方や折り合い方、つまり非認知能力であるコミュニケーション力や自制心をも育てているのです。※「非認知能力を育てるあそびのレシピ 大豆生田 啓友」より

乳幼児期は、人間形成の基礎を培う最も重要な時期です。帯解こども園の教育・保育目標は、帯解こども園の子ども達が卒園する時にはこのような子どもに育てて欲しいという願いを込めた目標です。

子ども達が、教育・保育目標のような子に育つためには、ありのままの自分を温かく受け止めてくれる大人がいるという安心感の中で、毎日の生活や遊びを通して、周りの大人や友達と一緒に様々な実体験の積み重ねをすることが大切です。

「何故かな?」「面白そう」と興味を持ったり、発見したり、「どうしたらいいのかな?」「もう一度やってみよう」と考えたり工夫したり試したりすることで意欲や主体性が育まれます。また友達とのやり取りの中で言葉で伝え合うことや、集団のルールを知ったり守ったりすることを通して社会性も育まれます。

このようにこども園では、日々の遊びや生活を通して、達成感や満足感、充実感を味わいつつも、時にはいけないうちでも試したり、友達と喧嘩をしたり、失敗もいっぱい経験しながら、ご家庭と共に「未来につながる生き抜く力の基礎」を育てていきたいと思っています。

大好き！ごっこ遊び ・ ままごと



男の子も「ままごと」が大好き！

男の子がままごとばかりしていると、もっと男の子らしい遊びをしたらいいのに、とご心配の方もおられるでしょう。誰かになりきるおままごとは、想像力を育み、コミュニケーション能力を養う大切な体験です。



★幼児クラスについてお知らせします★

考える力・認識の育ち！（3歳児）



泥って
気持ちいい！



あれ？うちにシャボン
玉液を付けて振ろうとし
たら、風が吹いてきて
シャボン玉がでちゃっ
た。不思議！



『3歳児期は「なんでかな？」「どうなっているのかな？」と思うことと自分が大切です。子どもから「どうして～なの？」と聞かれてた時に「正しい答えを教えなければ」と考える必要はありません。「よく見てたね」「不思議だなんて思ったのね」などと子どもの気づきに共感し、「どうなっているのかな？」「なんでかな？」と一緒に考えてあげましょう。適当にあしらわれたり「まだ知らなくていいよ」と言われたりすると、不思議だなと疑問を持ちたりすることは、価値のないことと思ったり、聞いてはいけないことと思ったりします。疑問を持つこと、不思議だなと思うことは、幼児期の知的発達にとっても小学校以降の学びにとっても、とても重要なことです。』

砂場で思いっきり水遊びを楽しんだAちゃん。足を洗いにO歳児の部屋の前まで来たとき、園庭の水たまりの泥んこに気が付きました。裸足でそこ中に入ってみると、さっき遊んでいた砂場の砂のザラっとした感触とは違うドロっとした泥の感触。ついつい面白くて、どろどろの泥を足や手に乗せてみたり、手でつかんで指の間から「にゅー」と落としてみたり…。ひとしきり泥の感触を楽しんでから満足して足を洗って中に入ってきました。水を含んだ砂と土の感触の違いに「不思議だな？」「面白いな」と感じていることが、これからの遊びの中でどのようにいかされていくのかちょっと楽しみです。3歳児は、偶然見つけたものから遊びを広げていきます。保育者も子どもの気持ちに共感しながら、一緒に面白がって遊びの芽が芽吹くのを見守っていきたいと思います。



活動が飛躍的に広がる（4歳児）

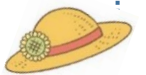
『4歳児は、活動が大きく広がる時期です。一つは手先や指先が上手に使えるようになります。「〇〇しながら〇〇する」ことができるようになり細かな作業もできるようになります。生活面では、お箸も上手に使えるようになります。遊びでは、道具が使いこなせるようになり、遊びが一層楽しくなっていきます。ルールのある遊びも楽しめるようになってきます。ごっこ遊びやルールのある遊びを通して、トラブルもくぐりながら、みんなで遊ぶ楽しさや他者の気持ちに気付く力を育てていくことが大切です』

うみ組のある日。部屋の一角にステージといすを並べた観客席。後ろには、カーテンで仕切られた、着替え用のスペース。音楽が鳴り出すとたくさんのお客さん役の子ども達と出演して踊る子ども達がいきました。観客席の後ろの机では、ハサミやセロテープで衣装の製作中の子ども達と、反対側の一角には、「アイスクリーム屋さん」が開店の準備中…。保育者は、それぞれの子供達が友達とのやり取りを楽しみながらしたい遊びが充実できるように援助したり、必要な材料や環境を整えたりしています。子ども達がどんなことに興味や関心を持っているのか、常にアンテナを張っていきたい毎日です。



ステージごっこ

アイスクリーム屋さん
レジだって手作り！



「集団的活動」の中で育つ（5歳児）

『5歳児は就学に向かう大切な時期ですが、それは決して「就学のため」「就学の準備」の時期ということではありません。幼児期に必要な活動を経験し、自信を付けて羽ばたいていくための時期です。就学を目前にすると、大人はどうしてもじっと座ってられるか、静かに先生の話が聞けるか、字が書けるか、などといった具体的で目に見えることが気になってきますが、強制的に「学校的な」練習をさせても、必要な力は急には身につきません。5歳児の時期に必要なことは、生活習慣を確立し、主体性を身に付けさせること、自己コントロールの力を育成すること、そしてそれらが土台に「集団の中での自分」として行動できる力を育ててくれることが大切です。「集団の中での自分」として行動するためには、集団活動を経験する中で、話し合いを通して問題を解決する力を育てることです』

6月、つき組の横の通路でシートを引いて絵の具で骸骨やお化けを描いてた子ども達。「これは何？」と尋ねると「さだこ」とのこと。お化け屋敷づくりの真っ最中でした。また最近は、お部屋で「マジックショー」の準備中の子ども達。司会役のAちゃんは手作りのヘッドセットマイクを装着し、Bちゃんたち3人はマジックのネタの仕込み中。それぞれの役割を自分たちで話し合いながら遊びを進めていこうとする姿がありました。子ども達の頭の中には、壮大なストーリーが展開されています。そこに没頭する姿は真剣そのものです。周りの大人は子ども達のそんな創造の芽を大切に育てていきたいですね。



温泉づくり
深いのを作ろう

ホースすぐ外れるから、
うまくつなげたいねん

マジックショー
ぞう組さんに出張公演

